

コミュニティバス運行計画は住民合意で

梶田進議員は、9月4日、計画されているコミュニティバス（巡回バス）について一般質問をおこない、町当局の見解をいただきました。

住民合意の形成を

梶田進議員質問 近年、身近にあった食料品店の閉店など、生活必需品の確保が困難になってきたことから、コミュニティ



一般質問を行う梶田進議員（9月4日）

バス（巡回バス）の必要性が高くなっています。

コミュニティバスは、買い物、通院、公共施設などに出かけるための交通手段として必要であり、特に、高齢者を中心とする生活弱者、交通弱者への生活援助ということから、「地域公共交通会議」での十分な議論・協議が重要です。

コミュニティバスを継続的に運行発展させていくためには、計画の段階から、住民参加、住民合意が重要です。どのように取り組まれるのか、お考えを伺いたい。

住民意見を反映

答弁 会議は住民・利用者代表、関係機関・団体の

の代表、学識経験者などで設置しています。会議が、バス事業の実施主体となるので、住民参加、住民合意のベースとなります。住民から出された提案、意見を汲み上げ反映させるようにしたいと考えています。

運行ルートの再考を

梶田進議員質問 運行車両としてジャンボタクシーをはじめ各種の車両が考えられる中で、運行車両をバスとした根拠は何ですか。

また、運行ルートについて、計画では市街化区域で1基幹ルートと2サブルートとなっていて、

コミュニティバスは、交通弱者、生活弱者の生活のための交通手段として考えると、町周辺部となる市街化調整区域こそ必要です。運行ルートを再考する

必要があるのではないかと考えますが、見解を伺いたい。

総合的に判断

答弁 利用者の積み残しは許されません。バリアフリー型であることなどの機能が備わっていることなどを総合的に判断して決めました。

コミュニティバスの運行は、全町域を対象としています。潜在ニーズが高いと見られるところからスタートしたいと考えています。

運行経費の収支は

梶田進議員質問 計画では、運行経費の5年後の収支率を20%としています。

また、バス利用者の潜在乗車人口からの推計では、37%の収支率となっています。

推計といえどもかけ離れた数字であり、統一性がないのはなぜですか。

潜在人口の状況で変化

答弁 収支率20%を目標としていますが、絶対的なものではありません。低い数字ではありますが、潜在人口をいかに顕在化するかによって、変化することとはあると考えています。

計画終了後はどうなる

梶田進議員質問 生活弱者、交通弱者の交通手段の確保という福祉を目的としたコミュニティバスの運行を考えると、運行計画が終了する5年後以降が心配となります。

公益性を優先

答弁 公益性を優先させますが、ただ税金を投入するかの議論は必要であります。収支率が低い場合、やめるといった考えは持っていません。住民コンセンサスが得られれば続けます。